農家の皆様へ

ツマジロクサヨトウに注意しましょう

飼料用とうもろこしを中心に国内で発生中

ツマジロクサヨトウは、きわめて広食性なヤガ科の害虫です。
南北アメリカで発生以降、アフリカ、アジアまで発生範囲を拡大しており、アフリカでは、とうもろこしに甚大な被害がでました。

南北アメリカ→アフリカ→アジアへと拡大

日本では、令和元(2019)年7月に鹿児島県において国内で初めて発生が確認され、これまでに22府県で発生が確認されています。
近隣の県では茨城県（令和元(2019年8月20日）や、福島県（令和元(2019年9月3日）で発生が確認されていますが、現在（令和２(2020年4月）までのところ、栃木県における発生は確認されていません。

これまでのところ、国内で発生が確認された農作物は
イネ科作物（飼料用 トウモロコシ 、スイートコーン、ソルガム、サトウキビ）です。
文献では、イネ科作物の他、アブラナ科（カブ等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（トマト、 ナス等 ）、ナデシコ科（カーネーション）、ヒルガオ科（サツマイモ等）、マメ科（ダイズ等 ）などの広範囲な作物を加害するとされています。

本虫の防除には早期発見が重要であることから、
日頃からのほ場の見回りを行い、疑わしい虫を見つけた場合はお近くの農業振興事務所もしくは、農業環境指導センター（裏面問合せ先）までご連絡ください。

●ツマジロクサヨトウが発生すると、
幼虫が葉、茎、子実を食害することにより被害が発生します

最大40mm前後

ツマジロクサヨトウ幼虫の寄生

写真は植物防疫所原図

●ツマジロクサヨトウの特徴

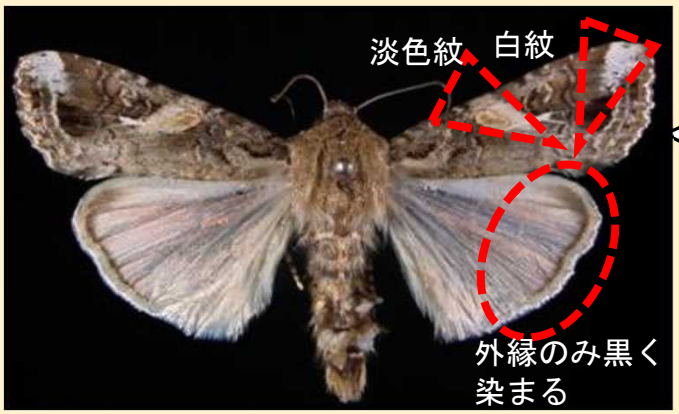

写真１　ツマジロクサヨトウ雄成虫

●成虫は、開張約37㎜。
前翅に淡色紋と白紋がある。
後翅は白色で、外縁付近のみ
黒く染まる

写真2　ツマジロクサヨトウ老齢幼虫の体色の変異

●幼虫は大きくなると体長約
40㎜、体色は左の写真のように
変異があります。

●頭部には網目模様があって
「逆Y字」に見えます。

●10㎜未満の幼虫は区別でき
ない場合があります。

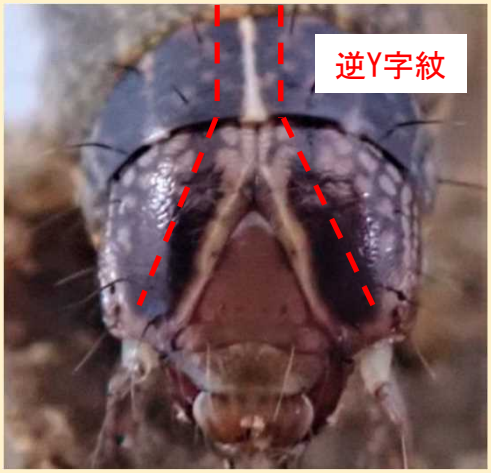

写真3　ツマジロクサヨトウ頭部と尾部の特徴

写真は植物防疫所原図

（※）ツマジロクサヨトウに関する情報はこちらで確認
(http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)

栃木県農業環境指導センター　防除課
電話：０２８－６２６－３０８６
FAX　：０２８－６２６－３０１２